

大阪府立大学 教員業績評価（試行）の結果について

平成 25 年 8 月 6 日

公立大学法人大阪府立大学

大阪府立大学では、教員活動の活性化と大学運営の改善を図るため、平成 22 年度に「公立大学法人大阪府立大学教員業績評価実施規程」を制定し、平成 23 年度業績に係る評価から教員業績評価を試行として実施しました。

今後、制度の運用状況を踏まえ適宜見直しを図り、本学の教育研究、地域貢献活動等の改善と向上に努めます。

1 目的

教員の教育・研究・社会貢献・大学運営の諸活動について現状を把握し、適正な評価を行うことによって、教育研究活動の活性化と質の向上並びに大学運営の改善を図り、大学としての社会的説明責任を果たす。

2 評価の仕組み

(1) 評価の構成

- ・ 二段階評価 : 一次評価及び二次評価
 - ・ 評価方法 : 領域（教育・研究・社会貢献・大学運営）別評価及び総合評価
- ア 領域別評価は 3 段階、総合評価は 4 段階で実施

<領域別評価>

評語	内 容
3	水準を上回っている
2	水準に達している
1	改善が必要である

≪総合評価≫

評語	内 容
S	顕著な成果があった
A	成果があった
B	やや成果があった
C	成果が不十分であった

イ 領域別評価は、各評価領域に設けた評価項目の点数の合計点で判定

総合評価は、各評価領域の合計点に重み付けを乗じて算出した総合点で判定

ウ 評価は絶対評価で実施

(2) 評価対象者

- ・ 本学の常勤教員（教授、准教授、講師及び助教）
- ※ 休職や育児休業等により評価対象年度の勤務実績が 9 月未満の者などは対象外

(3) 評価実施単位

- ・ 原則として、学系・部門（教育研究組織とは別に設置した教員組織）
- ※ 機械系、航空宇宙海洋系、電子数物系、電気情報系、物質化学系、応用生命系、緑地環境系、獣医系、物理系、数学系、分子系、生物系、看護系、総合リハビリテーション系、地域連携部門放射線研究センター担当、国際交流部門、人間社会学研究科、経済学研究科、高等教育推進機構、21 世紀科学研究機構 の 20 単位

(4) 評価者

- ・ 一次評価：評価実施単位の長（評価実施単位によっては、別途指定が可能）
- ・ 二次評価：理事長

(5) 評価項目・基準等

- ・ 評価項目・配点基準 : 全学基準を基に評価実施単位で活動の特性等を踏まえ設定
- ・ 評価基準 : 評価実施単位で設定

(6) 評価時期及び評価対象期間

- ・ 毎年度実施（当該年度実績の評価を次年度の基準日に実施）
- ・ 評価対象期間は原則当該年度 1 年間（研究発表は過去 3 年間）

3 評価結果の活用方法

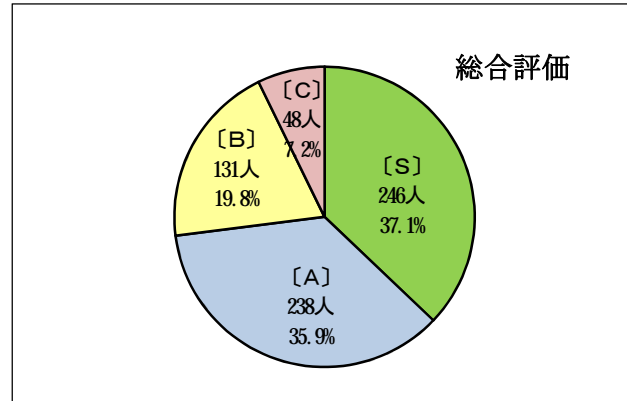
- ・ 結果について自己点検を行い、個人、組織レベルで改善活動を実施
- ・ 処遇への反映 ※制度の運用状況を踏まえ今後実施の予定

4 評価結果（平成23年度業績に係る評価の試行結果）

※ 評価対象者数（評価基準日：平成24年8月1日現在） 663人

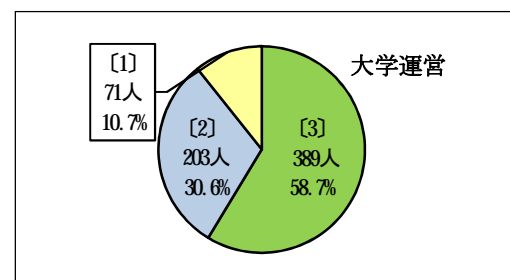
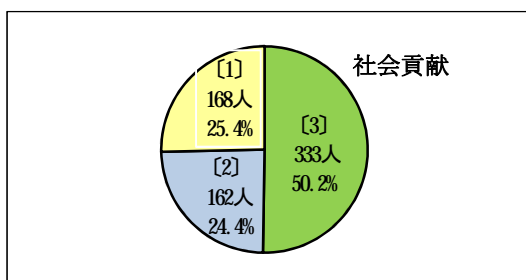
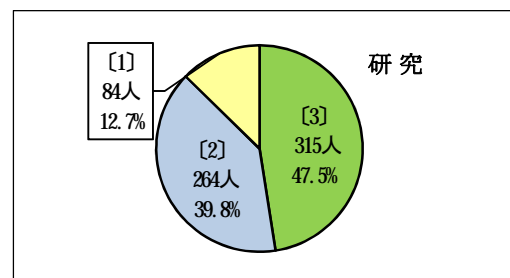
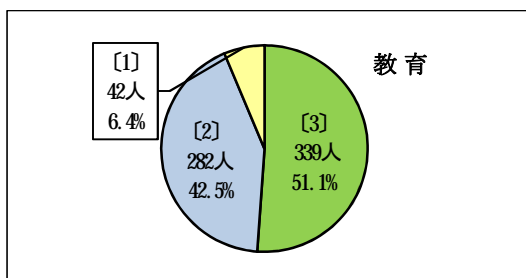
(1) 総合評価

評価	人数〔割合〕
S	246人〔37.1%〕
A	238人〔35.9%〕
B	131人〔19.8%〕
C	48人〔7.2%〕



(2) 領域別評価

区分 評価	人数〔割合〕			
	教育	研究	社会貢献	大学運営
3	339人〔51.1%〕	315人〔47.5%〕	333人〔50.2%〕	389人〔58.7%〕
2	282人〔42.5%〕	264人〔39.8%〕	162人〔24.4%〕	203人〔30.6%〕
1	42人〔6.4%〕	84人〔12.7%〕	168人〔25.4%〕	71人〔10.7%〕



5 制度の課題

(1) 研究重視型の評価システム

- ・ 各評価領域の合計点（積上げ方式）に重み付けを乗じ算出した総合点により総合評価を実施するため、活動の特性から結果として研究の点数が占める割合が高くなり、総合評価が研究の点数で決まる傾向が強い。

(2) 職階一律の評価システム

- ・ 評価項目や評価基準を職階に関わりなく一律に設定しているため、職位が上ほど、評価が高くなる傾向にある。